

人にはできないことが神にはできる

ルカ福音書18:24-30

- 18:24 イエスは彼を見てこう言われた。「裕福な者が神の国に入ることは、何とむずかしいことでしょう。」
- 18:25 金持ちが神の国に入るよりは、らくだが針の穴を通るほうがもっとやさしい。」
- 18:26 これを聞いた人々が言った。「それでは、だれが救われることができるでしょう。」
- 18:27 イエスは言われた。「人にはできないことが、神にはできるのです。」
- 18:28 すると、ペテロが言った。「ご覧ください。私たちは自分の家を捨てて従ってまいりました。」
- 18:29 イエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。神の国のために、家、妻、兄弟、両親、子どもを捨てた者で、だれひとりとして、
- 18:30 この世にあってその幾倍かを受けない者はなく、後の世で永遠のいのちを受けない者はありません。」

【祈りながら考えよう】

- (1) 裕福な者が神の国に入ることは、絶対不可能なことですか。
- (2) 針の穴についての2つの解釈を述べて下さい。
- (3) 「人にはできないことが、神にはできる」とはどういう意味ですか。

【解説】

(1) 裕福な者が神の国に入ることはむずかしい

《イエスは彼を見てこう言われた。「裕福な者が神の国に入ることは、何とむずかしいことでしょう》

前回、主イエスは富める役人に〈もし、いのちに入りたと思うなら、戒めを守りなさい〉と語られた。それは「もしあなたが律法を守ることで入れると考えるならば、本当に守ったらい」という意味である。

彼は十戒を守っていると思っていた。それでいて永遠のいのちを得ている確信がなかったので、〈何をしたら、永遠のいのちを自分のものとして受けることができるでしょうか〉と問わずにはいられなかった。

そうした彼の急所をイエス様は突かれて〈……あなたの持ち物を全部売り払い、貧しい人々に分けてやりなさい。…そのうえで、わたしについて来なさい〉と語られた。

イエスは若い役人の考え方の土俵上で、彼の誤りを明らかにされたが、彼はそれに気付かない。神と富に兼ね仕えていた役人はこのチャレンジに答えられずに去って行った。

ここで注意していただきたい。イエスは、財産の放棄を「救いの条件」とはしていないことである。ただ善行によって救いを得ようとする者に、誤りを悟らせるために挑戦されたのである。

主イエスは彼を見ながら、《裕福な者が神の国に入ること》のむずかしさについて述べられた。財産を持っていると、どうしてもそれを愛したり、それに頼ってしまう。

(2) らくだと針の穴

《イエスは彼を見てこう言われた。「裕福な者が神の国に入ることは、何とむずかしいことでしょう。金持ちが神の国に入るよりは、らくだが針の穴を通るほうがもっとやさしい。》

イエスに背を向けて、絶望して、しおしおと帰って行く富める役人の後ろ姿を見ながらイエスが語られた言葉である。この「針の穴」という言葉は、様々な解釈がある。

①第1の解釈

エルサレムを取り囲んでいる城壁に都に入るいくつかの門がある。大きな門、小さい門がある。中でも最も小さい1つの門がある。その門の名を「針の穴」と言う。この小さい門は、らくだがそのまま歩いて入ることができない。

背中のかぶあたりがつかえる。だかららくだが身を低くしなければ通れない。そういう「針の穴」という門がある。イエスは、あの裁縫をする「針の穴」を言われたのではなくて、このエルサレムに入る城壁の「針の穴」という小さい門のことを言われたのだという解釈がある。

そうすると、この「針の穴」という門とらくだの関係は、らくだが余計なかぶをもっているから、それがつかえて入ることができない。だから身を低くして、小さくなり、くぐれば入れる。人間、持ち物を捨てて、自分を貧しくして、心を低くすれば神の国に入れる、と解釈される。

②第2の解釈

医者ルカが用いている「針の穴」という言葉は、外科医が用いる針を特に指しており、主は文字とおりの意味のこと

を言われたと理解する。《らくだが針の穴を通る》ことが不可能なように、《金持ちが神の国に入る》ことも不可能だということである。

ここで言っているのは、人が金持ちとして《神の国に入る》のは不可能だということである。財産を自分の神とし、それを魂の救いよりも重んじているかぎり、回心することはできない。

(3) だれが救われるのか

《これを聞いた人々が言った。「それでは、だれが救われることができるでしょう。」イエスは言われた。「人にはできないことが、神にはできるのです。》

これを聞いた人々は、《それでは、だれが救われることができる》のかと思い始めた。当時、富を神からの祝福のしるしとする考え方があった(申命記28:1-8)。そこで、神から祝福されている金持ちが御国に入ることが不可能に近いなら、一体誰が救われようかと人々は困惑した。

裕福な者とは単に物を持っている者だけではない。この世に心を捕らえられていて放さないもの、これだけではどうしても捨てられないというものを、みんな持っている。そして「それを捨てなければ神の国に入ることはできない、救われることはできない」という意味で、主イエスが語られた、と受け取ったので、それでは、だれが救われることができるのかと、驚きあわててイエスに尋ねた。

(4) 人にはできないことが神にはできる

主は、「人にはできないことでも《神》にはできるのだ」とお答えになった。イエスは、救いが人の力によって獲得されるものではなく、「神の賜物」であることを強調する。人には出来ないが、神には出来る。これは「神の恵みの奇跡」なのである。

救いというのは、私たちの側の何かの行為、たとえば財産に対する執着を断ち切るといったことによって得られるのではなく、神が救いを賜物として与えて下さることである。恵みによって救われるということは、このことである。

救いはすべて神がその初めから終わりまでしてくださるものであって、私たちの行いではない。このことが分かると、不思議なことに、財産に対する執着も、その他のものに対する執着も容易に断ち切ることができる。

(5) 神の国のために、家や家族を捨てた者には報いがある

《すると、ペテロが言った。「ご覧ください。私たちは自分の家を捨てて従ってまいりました。イエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。神の国のために、家、妻、兄弟、両親、子どもを捨てた者で、だれひとりとして、この世にあってその幾倍かを受けない者はなく、後の世で永遠のいのちを受けない者はありません。》

①弟子たちの間違いを正す

弟子たちは、自分の払った犠牲の大きさに応じて神からの報いがあると考えていた。そこでイエスは、彼らの理解のレベルに合わせて答え、間違いを正された。彼らは新しい神の民を治める者となり、永遠のいのちを受けるのだから、報酬は払った犠牲をはるかに超える。しかし〈先の者があとになり、あとの者が先になることが多い〉(マタイ19:30)との御言葉から、払った犠牲の大きさに応じて報われるという考え方を否定された。

30節の後半に《後の世で永遠のいのちを》とあるが、「すべてを捨てることによって、永遠のいのちが得られる、救われる」と言っているのではない。救われた結果のことである。誤解しないでいただきたい。

《ペテロ》が「弟子たちである私たちは、あなたに従うために、家や家族をすでに《捨て》ました」と主に言った時、主は弟子たちの理解のレベルに合わせて、そのような犠牲を払った人生には、この世の人生において豊かな報いがあり、永遠の状態においてもさらに報いられる、とお答えになった。

②家族を顧みることの重要性

パウロは、次のように教えている。「もしも親族、ことに自分の家族を顧みない人がいるなら、その人は信仰を捨てているのであって、不信者よりも悪いのです」(Iテモテ5:8)。また主イエスは、パリサイ人たちや律法学者たちが、親を扶養する義務がないとした「律法の抜け道的解釈」を非難して、次のように言われました。「モーセは、『あなたの父と母を敬え』、また『父や母をのしる者は死刑に処せられる』と言っています。それなのに、あなたがたは、もし人が父や母に向かって、私からあなたのために上げられる物は、コルバン(すなわち、ささげ物)になりました、と云えば、その人には、父や母のために、もはや何もさせないようにしています。」(マルコ7:10-12)

このように、聖書は家族を顧みることの重要性について教えている。決して家族を粗末にすることを教えているのではない。主イエスはそのことを土台として、私たちの肉親との断ちがたい絆を断ち切るようにとされている。

なぜそのことが必要なのかと言うと、この世のものに未練を持ったまま神の国に行くことなどできないからである。

③神の祝福に満ちた人生の約束

神の国のすばらしさが本当に分かれば、この世の富や肉親との断ちがたい絆を断ち切ることは決して難しいことではない。私たちの救いのすばらしさが本当に分かれば、この世のものに未練など自然となくなっていく。

アッシジのフランチェスコ(フランシスコ会の創設者/1182-1226)が、自分の全財産を捨てて、清貧に甘んじる生活に入ることができたのは、そうすることによって神の国に入るためではない。神の国のすばらしさが本当に分かったからできたのである。

主がここで言うておられる約束を見ると、「神の国のため」に財産を捨て、肉親との断ちがたい絆を断ち切った人に与えられる祝福のことが言われている。その祝福を頂いて生きる人は、この世においては輝いた生き方をする事が出来、また、後の世にあっては永遠に神の祝福を頂くことができる。